

パリで舞うジャポニスム

マダム

「貞奴と花子」

Sadayakko & Hanako





ジャポニスム(仏:Japonisme)ブームのなかで、パリが一番華やかだった時代を駆け抜けた、2人の芸者、貞奴と花子。若き天才ピカソが貞奴の舞台姿を描き、巨匠ロダンが花子の面像60体を彫刻する・・・

その頃日本は、1868年(明治維新)に鎖国から開国へ江戸から明治へと長い眠りからさめ、日清戦争1894～1895年(明治27～28年)から日露戦争1904～1905年(明治37～38年)へと突入し近代化へと拍車をかけていた。そしてパリでは、1855年・1867年・1878年・1889年・1900年・1937年と19世紀の半ばから20世紀の初頭までに6度の万国博覧会が開催され、[ベル・エポック\(Belle Époque:良き時代\)](#)と呼ばれる程、ヨーロッパ中でパリが一番繁栄した華やかな時代・・・

それは時代の力点が、イギリスで起こった第一次産業革命の定着後、第二次産業革命がヨーロッパ中に浸透し、権力が一般市民に移行し、貴族から新興ブルジョアジーへと移りだす。そして、1889年(明治32年)パリ万博にエッフェル塔が完成し、1900年(明治33年)の[パリ万国博覧会](#)は、過去最大のおよそ4,700万人が入場し、[動く歩道](#)や、前年のパリ万博に合わせて建設された[エッフェル塔](#)にエスカレーターが設置されるなど、当時のパリは世界一の近代産業と市民生活の成熟した都市へと発展し、オルレアン鉄道のオルセー駅が鉄道駅兼ホテルとして完成。パリはまさしく世界の文芸の中心地であり、まさに「花の都」と呼ばれる程の賑わいをみせていた。そして又、1867年(慶応3年)のパリ万博に日本が初めて、幕府、薩摩藩、佐賀藩がそれぞれ出展してから、当時の西欧ではジャポニスムブームが起り、ロートレック(1864～1901年)は[侍姿で写真](#)を撮っている。モネ(1840～1926年)が1876年に36歳で描いた「[ラ・ジャポネーズ:La Japonaise](#)」や[マネ\(1832～1883年\)やエミール・ゾラ\(1840～1902年\)の日本趣味](#)、ゴッホ(1853～1890年)の浮世絵の模写や「[タンギー爺さんの肖像](#)」の背景に描かれ、[ジャポニスム](#)はぶんぶん臭いを放っていた。そしてそれは、パリ美と日本美が見事に交差した瞬間かも知れない?・・・

[川上音二郎](#)・貞奴一座は、1899年アメリカ興行後、ロンドンを廻り、1900年(明治33年)パリで行われた万国博覧会を訪れ、会場の一角にあったアメリカ人女性興行師、ロイ・フラー:Loie Fullerの劇場で「遠藤武者」「芸者と武士」の二本立てを公演する。7月4日の初日の公演には、彫刻家ロダンも招待されていた。ロダンは貞奴に魅了され、彼女の彫刻を作りたいと申

し出たが、彼女はロダンの名声を知らず、時間がないとの理由で断ったという逸話がある。8月にはフランス大統領エミール・ルーベが官邸のエリーゼ宮で開いた園遊会に招かれ「娘道成寺」を踊った。踊り終えた貞奴に大統領夫人が握手を求め、官邸の庭を連れ立って散歩したという。こうして彼女は「マダム貞奴」の通称で日本人初の女優として一躍有名になる。そしてパリの社交界にデビューした貞奴の影響は、キモノ風の「ヤッコドレス」の流行や、香水「ヤッコ」が発売され、フランスの演劇雑誌「ル・テートル」の表紙を飾り、世界的に名声を博したイタリアの女優ドーゼと同等に東洋のドーゼと云われ、フランス政府からオフィシェ・ダ・アカデミー勲章が贈られている。そして、クロード・ドビュッシーは貞奴の琴を聞き交響曲「海」に組み込み、アンドレ・ジイドは彼女の演技を絶賛し、当時パリに来ていた19歳の[ピカソが描いた貞奴の舞台姿のスケッチ](#)(パステル画)が、バルセロナのピカソ美術館に残っている。

それより僅かに2年後の1902年、34歳で踊子としてヨーロッパに渡った花子は一躍を旗揚げし、1906年にロイ・フラーと共にマルセイユで開催されていた植民地博覧会で公演を行い、その博覧会を訪れていた[ロダン](#)は、旧知のロイ・フラーの勧めで「芸者の仇討ち」や「ハラキリ」を演じていた花子の公演を見る事となる。特に、花子が桜の木の下で斬られて悶死する断末魔の表情に衝撃を受け、花子にモデルの以来を申し出て、1906年に6歳のロダンは、花子をモデルに制作を始める。小柄で身長が140cm足らずの彼女は「プチト・ハナコ」と呼ばれ、巡業がない時は自宅でロダン夫妻と寝食を共にするほどの親交があった。花子は欧米18ヶ国を巡業してスーパースターとなり、ロダンが制作した花子の面像58体の彫刻やスケッチが、[ロダン美術館\(Musée Rodin\)](#)に残っている。当時、パリにいた森鷗外の息子(森於菟)の家庭教師で、ロダンと花子との間を通訳をした人物の情報を元に鷗外は1910年に[短編小説「花子」](#)を発表している。

その後の[貞奴](#)は・・・

女優を育成するため、音二郎とともに帝国女優養成所を創立し、2年後、貞奴と音次郎はフランスの劇場や女優養成学校を視察の為に再渡欧。その後、1911年(明治44年)に音二郎は舞台上で倒れ死去する。ほどなくして貞奴は大々的な引退興行を行い「日本の近代女優第一号」として舞台から退き、若い頃の悲恋の相手だった、かつての恋人で福澤諭吉の娘婿の「日本の電力王」と呼ばれる実業家・[福澤桃介](#)と1920年頃同居し、夫婦同然の生活を始め、2人が名古屋市内に住んだ邸宅は「二葉御殿」と呼ばれ、政財界など各方面の著名人が集うサロンとなった。現在は復元・移築され「[文化のみち二葉館](#)」として再生している。桃介死去後、第二次世界大戦も終わった1946年、熱海の別荘で膵臓癌(すいぞうがん)により人生の幕をおろし静かに眠った、享年75歳・・・

そして、[花子](#)は・・・

1914年(大正3年)に第一次世界大戦が勃発し、花子はヨーロッパに留まり、慈善興業を行ないながら、1916年(大正5年)戦況の悪化により帰国する。フランスでは、翌1917年(大正6年)ロダンの妻ローズが死去し、更に9ヵ月後にロダンも77年の生涯を閉じた・・・

花子は、1918年(大正7年)に再びイギリスに渡り、巡業を再開。1921年(大正10年)に帰国、花子53才。妹が住んでいた岐阜の芸者屋置「新駒」に身を寄せた。1927年(昭和2年)[高村光太郎が訪れ](#)、著書「小さい花子」にその時の様子を記している。そして第二次世界大戦が勃発、数多くのロダンとの交流の品が残っていたが、大部分は岐阜空襲で失ったという。大戦終結の1945年(昭和20年)岐阜市西園町で丹毒で死去、77年の人生の幕を閉じた。ロダンが花子をモデルにした作品は約60点。そのうち2点を花子は持ち帰っている。そして、[花子が日本に持ち帰ったロダンが制作した、2つの作品](#)「死の顔・花子」と「空想する女・花子」は[新潟市美術館](#)で見ることが出来る。静岡県立美術館のロダン館に「[花子のマスク](#)」が一体と、それ以外に一般公開はしていないが、松方幸次郎氏購入の松方コレクションの1907年頃のロダン作(ブロンズ)「[花子の頭部](#)」が国立西洋美術館に収められている・・・

日本の女優第一号の川上貞奴(1871～1946年)や、同じく海外で女優として活躍した花子(1868～1945年)は、パリが最も華やかだった時代に訪れ、ベル・エポックにジャポニスムの可憐な華を添えた。日本に帰国後、2人の女性は第二次世界大戦の終わった年に前後して、70歳を遥かに超えて静かに眠っている。しかし、果敢に海外に進出し、華を咲かせた2人の女性らは、ジャポニスムとは如何なるもので、ベル・エポック(Belle Époque：良き時代)をどう捉え、かつ、輝く時代の風を受けながら、何を思い、舞ったのだろうか？・・・

(以下・主要参考文献↓・注：本文中に一部リンクさせています)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/川上貞奴>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/川上音二郎>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/福澤桃介>

ピカソの川上貞奴のスケッチ Sdayakko・ピカソ美術館 (バルセロナ)

Pablo Picasso - Sadayakko - París, 1901 - Pastel sobre paper - 37,1 x 25,5 cm - Col·lecció Pieter C.W.M. Dreesmann, Brussel·les, Bèlgica - Foto: Matthew Hollow - © Successió Pablo Picasso, VEGAP, Madrid 2009

<http://www.bcn.cat/museupicasso/ca/exposicions/temporals/imatges-secretes/ambits.html>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/パブロ・ピカソ>

文化のみち二葉館

<http://www.futabakan.city.nagoya.jp/>

名古屋発-くらしの文化 | 文化のみち二葉館

<http://www.japandesign.ne.jp/HTM/REPORT/nagoya/11/index2.html>

杉本苑子著「冥府回廊」(上)(下) 出版社-(株)文藝春秋

<http://books.livedoor.com/bs/?type=author&word=杉本苑子>

1985年-NHK大河ドラマ「春の波涛」原作：杉本苑子著「冥府回廊」-マダム貞奴-より

<http://ja.wikipedia.org/wiki/春の波涛>

[http://ja.wikipedia.org/wiki/花子_\(女優\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/花子_(女優))

新潟市美術館コレクション-オーギュスト・ロダン作「死の顔・花子」「空想する女・花子」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/新潟市美術館>

「花子の頭部」国立西洋美術館蔵-制オーギュスト・ロダン作1907年頃

松方コレクション(松方幸次郎氏購入; 1959年フランス政府より寄贈返還)

<http://collection.nmwa.go.jp/S.1959-0026.html>

ロダン館 静岡県立美術館 | AUGUSTE RODIN Shizuoka Prefectural Museum of Art

ロダンと日本 (花子のマスク)

http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/japanese/rodin/about_rodin/a_rodin/r10.php

ロダン館 静岡県立美術館 | ロダンについて

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/japanese/rodin/>

森 鷗外「花子」

http://www.aozora.gr.jp/cards/000129/files/45254_30927.html

ぎふ「ロダン&花子」の会

<http://www.hatelecom.or.jp/rodan&hanako/index.html>

ロダン美術館(その4)-ロダン「ハナコ/Hanako」

<http://www.merci-paris.net/musee/rodin4.html>

<http://ja.wikipedia.org/wiki/オーギュスト・ロダン>

「ロダンと花子」沢田助太郎／著・中日出版社

ロダンのモデルになった唯一の日本女性！欧米18カ国、20年を女座長として巡業し、熱狂的な人気を博した大女優“花子”の波乱の生きざまを描いたドキュメント・・・

<http://www.7netshopping.jp/books/detail/-/accd/1101376037/subno/1>

花子とロダン | (財) 岐阜にぎわい町公社 総務課 (注：当時の写真があります)

<http://petite-hanako.com/index.html>

ベル・エポック (Belle Époque・良き時代)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ベル・エポック>

博覧会一覧 (年表)

<http://www.ndl.go.jp/exposition/s1/index.html>

1900年第5回パリ万博・世界一周パノラマ館の日本芸者達

<http://www.ndl.go.jp/exposition/data/R/270r.html>

ロートレック侍姿の写真・日本美術(浮世絵)の影響

19世紀末に日本芸術がフランスに紹介されると、ゴッホと共に浮世絵に巡り会ったロートレックは、特に北斎・歌麿・

清長・春信に精通することを目指し、その研究に徹夜もいとわなかったのです。筆や墨汁を取り寄せたり、侍姿で何度も写真を撮ってもらったり・・・

<http://artprogramkt.blog91.fc2.com/blog-category-7.html>

ローテック侍姿の写真

[http://blog-imgs-34.fc2.com/a/r/t/artprogramkt/IMG_0003+\(7\)_convert_20100113201600.jpg](http://blog-imgs-34.fc2.com/a/r/t/artprogramkt/IMG_0003+(7)_convert_20100113201600.jpg)

(注意：PDFおよびePubではリンクしていない場合があります)

Copyright © guchini All Rights Reserved